

熊谷恒子の書 かなの美展

# 優美の調和 女性とかな

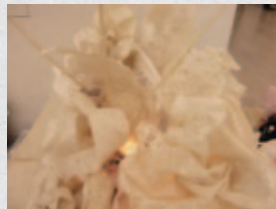
熊谷恒子（一八九三～一九八六）は、昭和期に現代かな書家として書壇の第一線で活躍した人物です。恒子の書には、気品のある美しさが感じられます。恒子は、かなについて「女性の手によって作られたといふ事は何としても我々女性として誇を感じる次第ではあるまいか。」と主張しています。かなの成立に女性が重要な役割を果たしたことを強調していることから、恒子が女性としてかなの品位を重んじていたことがわかります。

恒子は女性の書や文学への関心が高く、清少納言や紫式部、大田垣蓮月など文学界で活躍した女性作家の作品を題材にした書を多く残しています。本展では、平安時代中期に清少納言により執筆されたと伝わる『枕草子』第一段に記載された『秋はゆふぐれ』（一九三五年）から始まる随筆や、光源氏を主人公に平安時代の貴族社会を描いた『源氏物語』の『すまには』（一九六四年）、夫と死別した後に尼となり和歌と陶芸を学んだ京都出身の大田垣蓮月の和歌など、約二十点の作品を展示します。

昭和を代表する孤高な書家となった恒子は、古筆の習熟に努め、平安朝のかなを基盤に高貴な作風を確立しました。『枕草子』の『月のいとあかき』（一九七九年）は、八十代半ばを迎えながらも、まっすぐ筆を立てた筆法で表現された線が、大画面の中で凛とした印象を与えます。清少納言や紫式部といった女性の活躍が、かなを発展させる上において一つの原動力となったと考えられています。平安古筆に注目し、現代のかなに調和した恒子の優美な書を紹介します。

## コラボレーション展示 新春特別企画「和紙とかなの調和」

新春を飾る天然繊維の柔和な和紙造形作品と熊谷恒子の優美なかな書のコラボレーションです。手漉き和紙を用いて、伝統工芸の新たな表現を生み出す細谷照子の作品をお楽しみください。



2013年アンデパンダン展作品

12月22日（土）～2019年1月27日（日）  
出展作家：細谷照子（和紙造形作家）

【次回のコラボレーション展示】  
「刺繍とかなの調和（仮称）」  
2019年3月5日（火）～3月24日（日）（予定）  
出展作家：宗真理子（刺繍作家・女子美術大学 非常勤講師）

### 【今後の予定】

◆記念館講座「平安古筆にならう 熊谷恒子のかな」  
講師：大田区立熊谷恒子記念館 学芸員 飯島千尋  
日時：2019年2月16日（土）14:00～15:30  
場所：大田文化の森 第3・4集会室

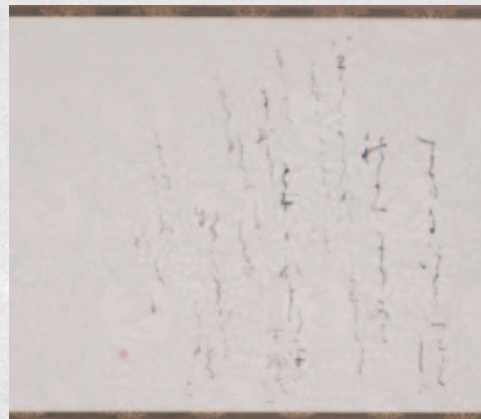
◆かなの美展「筆線の連なり（仮称）」  
2019年4月27日（土）～7月15日（月・祝）（予定）

※詳細及び申込方法は、大田区報、情報誌「ART MENU」、当館ホームページ等に掲載します。

※日程・内容は変更される場合があります。予めご了承ください。

## 大田区立熊谷恒子記念館

〒143-0025 東京都大田区南馬込4-5-15  
TEL:03-3773-0123  
http://www.ota-bunka.or.jp/kumagai



《すまには（源氏物語）》1964年

# 12月22日（土）～2019年4月14日（日）

開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）  
休館日：毎週月曜（12月24日（月・休）、2019年1月14日（月・祝）、2月11日（月・祝）は開館し、その翌日に休館）  
年末年始休館：12月29日（土）～2019年1月3日（木）  
入館料：大人100円 小人50円  
※65歳以上（要証明）と6歳未満は無料

### 【交通のご案内】

- ・都営地下鉄浅草線「西馬込」駅南口 徒歩10分
- ・JR京浜東北線 大森駅西口（山王方面）  
東急バス4番「荏原町駅入口」行乗車「万福寺」下車徒歩5分

